

組合だより

200号
記念号

2016年
6月21日

発行所 岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
電話 086-252-1111 (代)
7168 (内線)
直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次： 1～3：組合だより 200号に寄せて 4～8：組合だより主要記事一覧と組合活動の変遷
9：旅行記にかける思い 10：フーテン旅行記



組合だより 200号記念号をお届けします！

組合だより200号発行に際して歴代執行委員長からコメントをいただきました



組合だより第200号達成に寄せて

執行委員長 高橋 裕一郎

1996年10月発行の「組合だより」第1号から20年ほどでついに第200号発行を達成しました。これまでの岡山大学職員組合の「組合だより」への取り組みに敬意を表するとともに、今後も発行を末永く継続していくことを望んでやみません。2012年10月号から印刷のカラー化が行われ、「フーテン旅行記」の連載が始まり、現在ではウェブにアップされ、好きなときに閲覧が可能となりました。岡山大学以外の大学教職員で興味をもって読んで頂いている方もいると聞きます。とても誇らしいことではないでしょうか。「組合だより」は

職員組合の活動や岡山大学の抱える問題の変遷を記録する貴重な財産であるばかりでなく、今後の岡山大学が進むべき方向を考える上で大切な資料を提供してくれるはずです。全国の大学において、活発な組合活動が少しずつ難しくなっている状況下で、この「組合だより」は執行部の献身的な貢献により、岡山大学の全教職員に大学に関する情報や大学のあり方を考える貴重な手がかりを提供しています。岡山大学の発展のためにも、組合活動と「組合だより」が今後も大きく発展していくことを期待します。



岡大職組は「民主主義の学校」を原点に

2003～04, 07～08, 13～14年度執行委員長 中 富 公 一

私のなかで「組合だより」が一番忙しかったのは、2014年度に、年俸制と60分4学期制導入が検討され始めてからです。執行部からの情報を集め整理したり、それについてアンケートを集めたり、組合で話合った意見を載せたり。他大学の人からも資料が送られてきたこともあります。学内外からよく読まれているという実感がありました。

岡本さんは、出版社の編集員より原稿の督促が厳しく且つやさしく要請されるのでつい書かざるを得なくなります。新聞がスピーディーに出るのは岡本さんのお陰と感心しています。

いま気になっているのは、安倍政権の大学政策

ですが、岡大職組は特定の政党を支持や不支持はしないという原則と、立憲主義に立ち平和主義や大学の自治を守り、労働条件を改善するというもう一つの原則とをどう調和させるかです。大事なのは、組合は労働条件だけをやっていればいいという狭い立場に囚われず、「労働組合は、民主主義の学校である」（文部科学省著作教科書『民主主義』1948年）という観点に立って、民主的に様々な意見を交わせる場にあることだと思っています。青臭いかもしれませんが、様々な専門を持った人々が組合に集まり、活動を通して成長できるのがこの活動の楽しさかなと思っています。





「組合だより」をフレンドリーでスピーディーそしてクリアな情報チャンネルへ

2009～10年度執行委員長 山川 純 次

私が一般組合員だった頃、「組合だより」の印象は70年代の大学構内で配布されていた闘争機関紙と大差ありませんでした。大学当局と闘争すること自体を目的にし、一般組合員の福利厚生実現など二の次としているように見えていました。たまに読んで見ても、やはり紙面は大学当局の不当な弾圧に抗するといった類のアジテーションに溢れていて、すぐに閉じたものでした。

単組の執行委員、そして連合体の執行委員を務めさせていただくうちに、この種の雰囲気醸成されるのは正確な情報が「組合だより」に流れていないことに起因すると感じるようになりました。情報を組織の活動方針で統制するのは民主的とは言えません。また大学当局との対話に際しても正確な情報共有が必要です。そこで「組合だより」が組合員から大学側へ、そして大学側から組合員への情報チャンネルの一つになれば良いなと思い、私が連合体執行委員長を務めさせていただけるのを幸いに編集方針を少し変更しました。



「フレンドリー」つまり一面は組合闘争の扇動記事ではなく、組合員の福利を目的としたものにするので親しみやすい「組合だより」とする。まずは手に取って読んでいただけるように、とい

うことです。

「スピーディー」発行間隔を短くしホットな情報を流す。大学を取り巻く状況の変化はスピードアップしています。情報が遅れると二次的な、起きなくても良い類の問題を引き起こします。

「クリア」上意下達でもなく闘争扇動でもない、公正な情報チャンネルとする。メディアとしての信頼性を確立するということです。

どれもが編集委員の岡本さんに多大な苦勞をかけるものばかりでしたが、すべてが岡本さんの辣腕により実現し、楽しく、そして色々知ることができる「組合だより」となりました(と自画自賛しています)。それは今でも続いている様で、一般組合員に戻った私も、もちろん毎号を楽しみながら読んでいます(再度の自画自賛)。

「組合だより」は上手く機能すれば組合員にタイトな情報共有を実現します。それは執行委員会や定期大会とは少し趣を異にしますが、組合員の福利実現においては同等の重要な役割を担っています。やがてはPDFなどの電子媒体で発行することになっても、フレンドリーでスピーディーそしてクリアな「組合だより」であり続けるよう、そして組合員が幸せに働ける大学を実現するために役割を果たし続ける様、応援しています。



組合だより 200号に寄せて

2011～12年度執行委員長 住野 好 久

200号発行、おめでとうございます。

私が執行委員長をさせていただいた2011～12年は、給与10%削減の対する戦いがあったため、その状況を皆さんに伝えねばならないとの思いから、「組合だより」には毎号努力と工夫をしてみました。カラー印刷にしたり、後ろからも読めるように、イベント情報や組合員へのサービス情報は最終ページに、その前のページには大西先生による「フーテン旅行記」を入れたり・・・。

今大学では、大学執行部による上からの改革が推し進められ、「させられる仕事」が増大し、多忙化が深刻化しています。その結果、この大学で仕事ができる喜びやこの大学のために役に立ちた

いという意欲、この大学の仲間とともに充実した日々を過ごしたいという思いが弱まってきています。こうした時に、この大学で働くもの同士がつながり、語り合い、大学自治の当事者として発言することを保障する職員組合の役割はますます大きくなり、「組合だより」の役割も重要になっています。

これからも「組合だより」が届くのを楽しみにしております。組合執行部の皆様、頑張ってください。そして、書記の岡本さん、今後ともよろしくお願いします！





「組合だより」雑感

2000, 02年度執行委員長 小畑 隆 資

私は、2000年度から2004年度の、ちょうど、国立大学が法人化を迎える5年間の時期に、委員長を2回、副委員長を3回つとめさせていただきました。この、大学の大きな転換期に、岡大職組を維持・継続し新しい大学づくりの一翼をどう担うのかに腐心したことを思い出します。2002年7月の定期大会で、「人権を基軸にした参加型の組合」づくりを基本方針に掲げて、それまでの「労使対峙型」＝「要求実現型」の課題に加えて、「労使共同型」＝「参加型」の組合づくりを大きく前面に打ち出しました。そして、それまで各1名ずつであった三役のうち副委員長を「若干名」と規約改正、運動の蓄積を考えて、任期を終えた委員長・書記長にできるだけ副委員長として留まってもらい、三役体制を強化しようと試みました。

また、それまで、非常に負担の大きかった広報活動を改善しようと、「組合だより」発行については、三役以外の第三者（組合活動経験者で文章づくりや編集に関心をもっている定年退職者）に若干の謝礼を払って依頼することにしました（もち

ろん最終チェックと編集責任は三役）。この方には執行委員会に参加してもらうなどして、「組合だより」発刊のほぼ定期化を果たすことができました。それまで、せいぜい年に3～4回程度しか発行できていなかった「組合だより」がほぼ10回程度発行することができるようになりました。そして、その手法を漸次、書記の方に受け継ぐというやり方で、「組合だより」の定着をはかりました。現在の「組合だより」は、さらに進化し豊かな内容で発刊が続けられてきているように思われます。「組合だより」が200号を迎えたことを心から喜びたいと思います。

私は、2010年3月に定年で退職しました。今は、大学の外から、その後の大学組合や岡大職組の動向をときどき垣間見ているという状態です。今、大学組合や岡大職組が直面している諸問題は、かつてなく厳しいものがあるように思われます。ありきたりの言い方しかできませんが、ここはピンチをチャンスにすべく、ぜひ頑張っていてほしいと思います。



組合だよりへのコメント

2006年度執行委員長 鈴木 茂 之

組合だよりが200号に達するとは、長い歴史を感じさせます。私が組合に入ったのは30年近く前になります。当時の助手は文字通り助手でしたから、なんでも引き受けたものです。深く考えずに入り、組合活動を維持してきました。執行部の役目が回ってきて、会議で他学部の方々から、研究方法や専門のお話を聞く機会があったのは有益でした。またいろいろな学内の情報が得られます。最近では教員再配置やグローバルディスカバリーの動きです。「高度化」や「国際化」などの特殊な方向に向かわせるストレスを強く感じま

す。数のうえでの「成長」は目覚ましく進みますが、どうでしょうか。良くなっているとは実感できません。ところで地球史のなかでは、成功して特殊化した動物ははやく絶滅します。改革を続ける大学の行く末を憂慮する声がよく聞かれます。一方組合は昔とそんなに変化がありません。古生代前期から現在まで変化しないオウムガイは長生です。また新しい生物はプロトタイプ的な、時代遅れにみえるものから出現します。先は見えませんが、組合のような組織から何か解決策が生まれるのかもしれない。



～ あなたも組合の仲間になりませんか？ ～

あなたの声を大学運営に、労働条件改善に反映させてみませんか？

私たちは、あなたの参加を期待しています。

主な活動：団体交渉、学長懇談会研究科長・各部長・病院長と交渉、講演会、学習会の開催、レクリエーション活動、コーラスサークルなど。

教員の方も、事務職員の方も、技術職員の方も、パートの方も組合に入ることができます。どうぞ、お近くの組合役員もしくは、組合事務所までご連絡ください。



組合だより主要記事一覧と組合活動の変遷

副委員長 藤原 貴生

今号の組合だよりは、1996年10月発行の1号から数えて200号目にあたります。この間、通常号の他に17本の号外もあり、岡山大学職員組合ではこの20年間に今号含めて217本の組合だよりを発行してきました。今回、200号達成を記念し、過去組合だよりに掲載してきた主要記事を年度（組合の年度は7月から翌年の6月まで）ごとに一覧にまとめ、組合活動の変遷を振り返ってみたいと思います。



1995年度以前

組合だよりには前身があり、1995年度までは「職組新聞」の名前で発行されていました。最後の職組新聞は、1996年4月発行の329号で、現在組合に残っているものでは、1973年5月発行の1号まで遡ることができます。しかし、バックナンバーの途中で号数の若返りがあったり、1号に「3年ぶりの職組新聞発行です」と記されていたりすることから、実際には329本よりも多くの本数の職組新聞が発行されていたものと思われる。その他、1975年度までは「半田山速報」という名前の新聞も同時に発行されていて、速報的な記事はこちらで広報していたようです。ワープロ普及以前の古い新聞は、手書きで作成されていました。ちなみに用紙サイズは、1991年度まではB4判、1992年度からはB5判で発行されています。

用紙サイズの変遷

1996年度の執行部により職組新聞がリニューアルされ、組合だより1号が発行されます。紙面サイズはB5判から美濃判に変わり印刷も高品位なものになりました。おそらく業者で印刷したものだと思われます。美濃判は翌年度の5号まで続き、美濃判の他にB5判の号外も発行し、速報性の必要な記事はこちらで扱っていたようです。1998年度からはB5判も通常号としてカウントされるようになり、緊急発行のものだけ号外とするようになりました。B5判での発行は2001年4月発行の18号まで続き、同年5月発行の19号からは現在と同じA4判で発行されています。また、2001年度までは、ときどき高品位印刷で紙面サイズの大きなものがあり、10号、13～16号、29号がB4判、21号が美濃判で発行されています。

1996～1997年度 任期制

1996年度～1997年度は、「任期制」を巡る取り組みが主要な活動です。組合だよりで学習会の開催を案内したり、法案の動向を伝えたりしています。交渉の要求も任期制がメインです。

1996年度

No.	発行日	記事
1	10/1	新三役あいさつ
2	12/1	学長交渉要求書
号外	1/1	任期制学習会案内
号外	4/1	人事課長交渉報告
号外	4/10	任期制法案閣議決定
号外	5/28	任期制法案採択

1997年度

No.	発行日	記事
号外	7/17	要求書回答
3	9/10	活動方針
号外	1/10	新年あいさつ
4	3/20	学長交渉要求書
5	6/10	要求書回答

1998年度 大学審議会中間まとめ

1998年6月に大学審議会によって「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（中間まとめ）が発表されますが、それが大学関係者に与えたインパクトはかなり大きかったようで、同年8月発行の号外は、まるまる中間まとめの概要を取り上げ、それに全大教の見解が添えられています。1998年度以降の組合活動は、中間まとめによって示された大学自治の解体、競争原理の導入、学長権限の強化などの指針に沿った改革に抗う活動であるということもできると思います。初めて「法人化」の言葉が登場するのは、1999年2月発行の8号で学長交渉要求書の中で法人化と人員削減に対する見解を学長に求めています。



1998年度

No.	発行日	記事
号外	8/1	大学審議会中間まとめ
6	1/1	活動方針
7	1/25	中間まとめに対する意見書
8	2/22	学長交渉要求書
9	6/10	学長交渉要求書回答

1999～2000年度 法人化への過程



2000年2月発行の11号で前年に続き再度法人化に対する見解を学長に求めています。これに対する回答が2000年11月発行の14号に掲載されており、この中で当初計画されていた独立行政法人の適用をさけて国立大学法人法の制定に至る国や文科省の動きにも言及されています。現在、式典での君が代斉唱が問題となっていますが、2000年度には、君が代演奏が問題となっており三度に渡って学長へ要請を行っています。

1999年度

No.	発行日	記事
10	10/15	活動方針
11	2/1	学長交渉要求書
12	5/1	人事課長交渉報告

2000年度

No.	発行日	記事
13	7/25	活動方針
14	11/25	学長交渉報告
15	2/28	学長交渉要求書
16	3/20	君が代演奏問題要請書
17	4/2	君が代演奏問題要請書
18	4/6	君が代演奏問題要請書回答
19	5/25	人事課長交渉報告
20	6/7	国大協文書と全大教要望書

2001～2003年度 法人化



2001年度から2003年度にかけては、年間発行数が17～19本とたいへん多くなっており、法人化にむけて活発な活動がなされたことがうかがわれます。2001年度は、法人化に伴う人事制度についての学習会の案内と報告を行っており法人化に向けた対応が残されています。また、大学憲章作成にむけた取り組みも行われています。2002年度は、法人化後の労働条件や大学運営について特集が組まれており、大きく変わる制度に対し教職員の理解を助ける活動に力が注がれています。2003年度は、いよいよ2004年4月から始まる法人化にむけて職員代表委員会の設立に向けた動きが詳しく記されています。職員代表委員会は、他大学に先駆けて岡山大学で導入されましたが、その過程で職員組合が大きく関わっています。

2001年度

No.	発行日	記事
21	8/1	学長交渉報告
22	11/1	新執行部紹介
23	11/15	シンポジウム報告 大学憲章を作ろう
24	12/1	全大教中国ブロック連絡会報告
25	12/15	学長交渉要求書

26	1/15	新年あいさつ
27	1/25	岡山大学憲章案
28	2/1	全大教単組代表者会議報告
29	2/15	学長交渉要求事項
号外	2/25	学長交渉要求書
30	3/1	教職員の身分に関する緊急要望書
31	3/15	法人化に伴う人事制度緊急学習会案内
32	4/1	法人化に伴う人事制度緊急学習会報告
33	4/15	事務局長通告 日々雇用職員全員解雇
34	5/1	非常勤職員雇用問題緊急質問書
35	5/20	山形大学憲章案紹介
36	6/5	非常勤職員雇用問題事務局長交渉報告
37	6/25	活動方針案

2002年度

No.	発行日	記事
38	8/8	定期大会報告
39	9/2	学長懇談会報告
40	9/30	教研修会報告
41	10/17	執行委員会報告
42	11/11	教研集会学長あいさつ
43	11/29	岡山大学の改組動向まとめ
44	12/17	法人化後の労働条件解説
45	12/17	法人化後の労働条件解説
46	1/17	新年あいさつ
47	2/10	法人化後の大学運営解説
48	3/18	国立大学法人法案が国会日程
49	3/19	国立大学法人法案に対する国大協見解
50	3/25	事務職員アンケート結果
51	4/17	国立大学法人法案反対国会行動報告
52	4/25	国立大学等法人化国会審議
53	5/13	組合員拡大大幅達成
54	5/20	有事法案に関する緊急声明
55	6/4	学長交渉要求書
56	6/20	定期大会案内

2003年度

No.	発行日	記事
57	7/15	国立大学法人法成立
58	7/25	定期大会報告
59	10/10	法人化対応
60	11/5	過半数代表委員会解説
61	11/25	過半数代表委員会解説
62	12/17	職員代表委員会(暫定)委員選出
63	1/7	法人化準備交流会報告
64	1/26	職員代表委員会(暫定)報告
65	2/16	労働時間延長解説
66	3/11	職員代表委員学長会談報告
67	3/20	医学部単組相談会報告
68	4/5	国際共同行動 3.20 参加報告

69	4/26	奈良教育大学組合連合声明
70	5/19	就業規則解説
71	6/3	裁量労働制解説
72	6/10	定期大会案内
73	6/28	労働局個別労使紛争斡旋報告

2004年度 学長選挙

2004年度は、学長選挙が行われましたが、初の組合主催の「候補者懇談会」が開催されました。2005年4月発行の84号によれば、当初「立会演説会」として企画されましたが、学長からの要請で名称が変更されたとのことです。内容としては3人の候補者による演説と質疑応答が行われています。2005年5月発行の86号では、学長選挙を振り返って経緯説明と論点評価がなされており、当時の組合執行部による提言がなされています。

2004年度

No.	発行日	記事
74	7/7	定期大会報告
75	7/30	新執行部紹介
76	9/21	裁量労働制解説
77	10/26	全大教教研集会報告
78	11/17	寒冷地手当問題団体交渉申入書
79	11/30	寒冷地手当問題団体交渉報告
80	12/22	学長選挙等についての学長交渉申入書
81	1/24	労働時間等に関する要求書
82	2/18	学長選挙等についての学長懇談会報告
83	3/4	労働時間等に関する団体交渉報告
84	4/26	組合主催学長候補者との懇談会報告
85	5/25	附属学校産前休暇延長実現
86	5/31	学長選挙まとめ

2005～2006年度 大幅賃金引き下げ

2006年1月に平均5%にも及ぶ大幅な賃金引き下げが行われました。現給保障により、給与の金額こそ下がりはせんでしたが、多くの教職員が当面の昇給停止を余儀なくされました。2005年度～2006年度は、この事態に対応する活動に注力しています。特に、2005年度は、再三にわたり団体交渉を行い、一方で、地域給や現給保障の解説を行っています。この間、労働環境に関するアンケート調査を行い、2006年10月発行の100号で結果報告がされていますが、その中でも大幅賃金引き下げに関連する設問と回答があります。

2005年度

No.	発行日	記事
87	7/21	定期大会報告
88	8/8	新執行部紹介
89	10/7	地域給問題解説

90	11/9	賃金引き下げについての要求書
91	12/1	賃金引き下げについての団体交渉報告
92	12/22	書記宮本さん送別会報告
号外	2/14	学長懇談会
93	2/15	賃金引き下げについての団体交渉報告
94	3/13	賃金引き下げについての団体交渉報告
95	5/12	現給保障解説
96	5/31	中四国教研集会案内

2006年度

No.	発行日	記事
97	7/28	定期大会報告
98	8/24	中四国教研集会報告
99	9/14	審査・入試手当に関する団体交渉報告
100	10/24	労働環境アンケート結果
101	12/12	勤勉手当等に関する要求書
102	12/20	勤勉手当等に関する団体交渉報告
103	1/24	新年あいさつ
104	3/15	執行委員会報告
105	4/10	組合加入案内
106	5/23	定期大会案内
107	6/25	委員長あいさつ

2007～2009年度 有期雇用職員の待遇改善

2007年度～2009年度は、有期雇用職員の待遇改善のための活動に力が入れられています。2007年度は、非常勤職員の待遇改善に関する団体交渉を行っています。また、全大教書記長の来訪があり、全大教指針に沿った組合拡大にむけた取り組みにも力が入れられています。2008年度は、当時雇用期間が3年だった短時間勤務職員の雇い止め停止を求めて団体交渉を行っています。2009年度は、非常勤職員の最大雇用期間が6年に延長されました。組合では、非常勤・契約職員のアンケート調査を行い、非常勤職員を交えての学長懇談会を行っています。

2007年度

No.	発行日	記事
108	7/25	定期大会報告
109	8/3	委員長あいさつ
110	9/7	入試手当改善実現
111	10/22	団体交渉要求書
112	12/4	団体交渉報告
113	2/6	全大教指針 組合員拡大
114	3/27	委員長あいさつ 組合員拡大
115	5/14	組合加入案内
116	6/26	定期大会委員長あいさつ

2008年度

No.	発行日	記事
-----	-----	----

号外	8/27	事務職員アンケート結果
117	9/8	事務職員アンケート結果
118	9/30	定期大会報告
119	11/12	要求書(4本)
120	12/22	要求書回答に対するコメント
121	1/22	早田幸政氏講演会報告
122	3/5	教員アンケート結果
123	4/6	非常勤職員雇止め問題団体交渉報告
124	4/8	組合加入案内
125	6/17	期末勤勉手当削減問題団体交渉報告

2009年度

No.	発行日	記事
126	7/22	定期大会開報告
127	10/2	全大教声明 賃金切り下げ反対
128	11/6	俸給・期末勤勉手当削減に関する要求書
号外	11/16	人勧準拠に反対する団体交渉報告
129	12/11	職員給与規則の一部改正意見書
号外	12/15	俸給・期末勤勉手当削減代償措置要求書
130	1/22	新年あいさつ 団体交渉報告
131	2/26	非常勤職員待遇改善
132	4/5	組合加入案内
133	5/28	学長懇談会報告

2010年度 学長選挙

2010年度は、組合だよりで4回に渡って学長選挙の特集を組んでいます。組合主催の候補者立会演説会を行い、それに先駆け、3人の候補者に質問状を送り、回答を組合だよりに添付して学内に配布しています。

2010年度

No.	発行日	記事
134	7/21	定期大会報告
135	8/9	委員長あいさつ
136	9/2	学長選特集Ⅰ 学長選考の役割
137	10/6	学長選特集Ⅱ 我々の求める学長像
138	10/20	学長選特集Ⅲ 候補者への質問事項
139	11/16	学長選特集Ⅳ 学長候補者からの回答
140	12/16	俸給・期末手当削減問題団体交渉報告
141	12/21	学長候補者立会演説会報告
142	1/27	新年あいさつ
143	2/10	給与・環境整備に関する質問と回答
144	4/1	組合加入案内
145	6/29	学長懇談会報告

2011～2012年度 人勧と特例法による給与削減

2011年度～2012年度は、人事院勧告と臨時特例法による給与削減に対する取り組みに力が入れられています。2011年度は、緊急のアンケート

調査を行い教職員の声を武器に団体交渉を複数回行っています。2012年度も、これに関連して代償措置を求める団体交渉を行っています。また、退職金手当引き下げに対する取り組みや、労働契約法の改正に伴う有期雇用職員制度改定にむけた取り組みにも力が入れられています。2012年10月発行の156号から印刷のカラー化が行われ、現在も好評連載中の「フーテン旅行記」がスタートしました。そして同年同月発行の157号から現在の水色を基調とした新デザインが導入されました。

2011年度

No.	発行日	記事
146	8/3	定期大会報告
147	9/28	全大教教研集会報告
号外	9/30	全大教文科省会見報告
148	11/11	全大教声明 給与臨時減額法案反対
149	12/22	公務員給与削減対応等に関する要求書
150	1/31	公務員給与削減対応等団体交渉報告
151	3/22	給与引き下げ問題団体交渉報告
152	4/18	組合加入案内
153	5/15	賃金引下げ等に関するアンケート結果
154	6/12	臨時給与削減解説

2012年度

No.	発行日	記事
155	7/24	定期大会報告
156	10/4	団体交渉確認事項
157	10/31	学長懇談会報告
158	12/5	労働契約法改正学習会報告
159	12/25	給与削減代償措置等団体交渉報告
160	1/31	退職手当に関する団体交渉報告
161	2/28	有期雇用職員制度改定解説
162	3/15	団体交渉報告
163	4/22	組合加入案内
164	6/14	教員アンケート結果

2013年度 学長選挙

2013年度は、学長選にむけた取り組みに力が入れられています。団体交渉では、宿舍縮小問題や高齢層職員の昇級抑制に対して取り組んでいます。

2013年度

No.	発行日	記事
165	7/8	定期大会報告
166	8/9	宿舍縮小問題についての要望書と回答
167	9/5	学長懇談会報告
168	10/3	大学改革 京都大学での事例報告
169	10/31	学長選特集Ⅰ 選考に教職員の声を

170	11/8	学長選特集Ⅱ 学長候補者からの回答
171	12/13	団体交渉報告
172	1/10	高齢層職員昇級抑制問題再質問と回答
173	3/20	臨時減額措置繰上停止の要求書と回答
174	4/18	組合加入案内
175	5/28	全大教声明 国大法・学教法改正反対
号外	6/6	国立大学法人法・学校教育法改正解説

2014～2015年度 年俸制と60分授業4学期制

2014年度～2015年度は、「スーパーグローバル大学創成支援(SGU)」採択により導入された年俸制と60分授業4学期制(クォーター制)について特に力をいれて取り組んでいます。導入以前より繰り返し団体交渉を行い、それぞれの制度が抱える問題点を明らかにして改善への努力を続けています。

2014年度

No.	発行日	記事
176	7/1	高齢層職員昇給抑制問題要求書と回答
177	7/18	60分・クォーター制についての質問書
178	8/8	60分・クォーター制の問題点解説
179	8/19	学長懇談会報告
180	10/20	60分・クォーター制導入に対する要求書
181	11/10	年俸制導入等に関する団体交渉報告
182	11/17	年俸制解説
183	11/21	年俸制導入等に関する団体交渉報告
号外	11/26	60分・クォーター制アンケート結果
号外	12/5	年俸制についての質問書
184	12/17	年俸制説明会報告、年俸制教研集会報告
185	1/13	新年あいさつ 60分・クォーター寄稿
186	1/28	年俸制に関する団体交渉特集
187	3/11	60分・クォーター制の問題点解説

188	4/14	組合加入案内
189	6/16	60分・クォーター制導入に関する要求書

2015年度

No.	発行日	記事
190	7/27	60分・クォーター制導入団体交渉報告
191	9/9	新執行部紹介
192	10/27	俸給表改定等に関する団体交渉報告
193	11/30	人勧対応解説
194	12/17	学長懇談会報告
195	1/28	新年あいさつ 年俸制に関する質問書
196	2/17	賞与・年俸制等に関する団体交渉報告
197	3/10	駐車料金値上げに関する要求書
198	4/19	組合加入案内
号外	5/6	熊本地震募金
199	5/19	年俸制関連等に関する質問書

以上、組合だよりの記事を頼りにここ20年間の組合活動の変遷をたどり、ざっくりとまとめてみました。記事の作成に当たって、過去の組合だよりをいくつかピックアップして目を通してみましたが、現在に至る経緯を俯瞰することができ、ここ数年の組合活動の履歴しか知らない身としては、いろいろと勉強になりました。

組合だよりは、現在25号以降がウェブにアップされて閲覧可能になっていますが、組合の過去の活動記録としてよくできたアーカイブになっていると思います。今後も活動方針の足がかりとして様々な場面で役立てていくことができるでしょう。もし、皆さんが組合だよりの過去の記事に当たりたいとき、この記事が参考になれば幸いです。

アンケートのお知らせ

次の学長選挙が近づいてきました。職員組合では、森田体制を総括するアンケート調査の実施を計画しています。60分授業4学期制、年俸制、キャンパス工事など、あなたは森田体制をどのように評価しますか？ 調査結果をもとに、次の体制作りに役立てて行きたいと考えています。詳しくは後日ご案内いたします。組合のアンケート調査にご協力よろしくお願いいたします。

6/3(金)倉敷、大原美術館で開催のギャラリーコンサートに行きました。出演は、ラケル・アンドウエサ&ラ・ガリアニア。17世紀のイタリアとスペインの楽曲を、ソプラノとバロックギターとテオルボが奏でます。哀愁の調べが静かにゆっくりと室内に満ちていき、絵画の人物が、動き出すようでした。アンコール曲は、熊本地震で被災されている方へ祈りを込めて、「五木の子守唄」を歌われました。こころにしみいるひとときでした。 一代

熊本地震カンパ

ありがとうございました

組合だより号外(5/6発行)にて、熊本地震へのカンパを募集しましたところ、たくさんの方より募金をお寄せいただき、ありがとうございました。月末にAMDAに寄附する予定です。

組合だよりに潤いを 旅行記にかける思い

工学部単組 大西 孝

組合だよりの創刊 200 号、おめでとうございます。筆者が組合だよりに連載してきた拙稿「ローカル線で行く！ フーテン旅行記」もお陰様で連載 34 回を迎えることができました。ここでは、これまでの連載を振り返って、旅行記の連載の意味や筆者の思うところをご紹介します。

そもそも、旅行記の掲載を始めたのは、組合だよりの 156 号（2012 年 10 月 4 日発行）でした。当時、筆者は本学に奉職して半年ほどでしたが、会社に勤務していた頃にも労働組合に入っていた（管理職以外は原則加入するシステム）ので、それと同じ感覚で本学の職員組合に入り、工学部の執行委員として月に一度の執行委員会に出ていました。組合だよりの 156 号から、フルカラー印刷が始まることになり、当時の執行委員長の住野先生から「趣味の旅行で組合だよりに彩りを与えられないだろうか？」という打診をいただきました。筆者の趣味は全都道府県を踏破したと職員組合の懇親会で自己紹介をしたことを覚えて下さっていたのか、依頼をいただいた際は少し意外に思いましたが、あちこちで撮った写真も手元にありますし、文章を書くのも嫌いではありませんので、お引き受けすることにしました。今でも「毎月どこかに旅行へ行かれていますか？」と聞かれることがあります。誌面を賑わしている写真の多くは、学生時代や社会人時代に撮影したもので、最近はなかなか多忙で旅行に出ることはありません。それでも青春 18 きっぷの利用時期になると、休日を利用して列車で出かけて、情報のアップデートに努めています。

最初は誌面のスペースの調整にでも使ってもらえればと思って気軽に始めましたが、意外と読んで下さる方が多いようで、組合だよりの発行時期になると、職場で「読んだよ」とか「どうやら記事に出ていた場所に行けるの？」というようなご質問をいただくこともあります。組合だよりは、その性質上、いささか堅い内容（給与や労

働条件の変更など）が多く、貴重な情報が多く含まれていても、気軽に読んでもらえるかという点、必ずしもそうではありません。そこで、一服の清涼剤として旅行記を掲載し、まずは組合だよりに手に取っていただき、他のページにも目を移してほしいというのが、筆者としての思いです。組合をもっと身近に感じてもらい、活動への理解が深まればという意図で、いつも執筆しています。マンネリにならないよう、全国の鉄道路線とその沿線を、旅行雑誌などには載っていない情報も交えながらこれからもご紹介したいと思います。

なお、ご紹介する路線を訪れる際、たいいていの場合普通列車で旅をしています。これは筆者が、日ごろは仕事に追われ、なかなかゆったりとできる時間がない中で、普通列車でのんびりと過ごす時間こそ、最大の贅沢だと考えているからです。連載のタイトルになっている「フーテン旅行記」は、誰もが知っている「寅さん」にちなんだものですが、寅さんも普通列車が大好きだったと聞いています。寅さんの考えでは、上野の不忍池のボートは、長く乗るほど料金が高くなるのに、乗車時間が短いにも関わらず料金が高い特急列車というのは、性に合わないのだそうです。もちろん、目的地での時間を有効に使える特急列車は魅力的で、車内も実に快適です。筆者も仕事ではよく新幹線を使い、その便利さと快適さには、目を見張るものがあります。しかし、仕事以外の時に時間が許せば（あるいは時間を作って）普通列車に乗り、方言を聞きながら、地元の名産品の入った駅弁に舌鼓を打つのも、実に楽しいものです。観光ガイドなどでは、観光地が紹介されますが、そこに至る道中での魅力はあまり紹介されません。しかし、筆者は途中経路も含めて、旅行ではないかと思っており、この旅行記を通じて、そういった旅の魅力もご紹介できればと思っています。

これからも、写真のストックが続く限り、旅行記の連載を続けていきたいと思っています。どうぞご期待ください。



各地の駅弁も列車の旅を楽しむうえで欠かすことができません。駅弁やその地域の名物のご紹介も続けていきたいと思っています。



草生した線路に 1 本だけのホームと木造駅舎。こういった味わい深い駅が全国のローカル線にはまだまだあります。こういった風景がいつまでも残ってほしいものです。

ローカル線で行く！フーテン旅行記

第34回 祝開館！津山まなびの鉄道館 津山線

工学部単組 大西孝

今回は組合だより 200号にふさわしく、岡山県内の嬉しい話題をお届けします。津島キャンパスの近くを走る津山線の終点、津山駅の近くに今年4月2日、「津山まなびの鉄道館」がオープンしました。この「津山まなびの鉄道館」は、津山駅の裏手に広がる扇形の車庫、扇形庫（せんけいこ）に多数の車両を集めて展示するものです。扇形庫というのは聞きなれない言葉かもしれませんが、かつての鉄道の主役、蒸気機関車（SL）は、進行方向を変える際にターンテーブルの上で回転させ、方向転換していました。そのターンテーブルの周りに車両を留置するために扇形に線路を設置した車庫が扇形庫で、かつては岡山駅の近く、宇野線の西側にある岡山機関区や、中国山地を越えるために多くの蒸気機関車を擁した新見機関区にも扇形庫があったそうです。戦後、旧国鉄は動力近代化計画を打ち出し、電化の進展やディーゼル機関車、ディーゼルカーの導入により昭和51年までに蒸気機関車が全廃されると、扇形庫は無用の長物となり、多くの機関区で姿を消しました。一方で、わずかな数の扇形庫が全国に残され、最も有名なものは先日京都でリニューアルオープンした京都鉄道博物館（旧梅小路蒸気機関車館）のものではないかと思えます。津山の扇形庫も取り壊されずに残り、今では経済産業省の近代化産業遺産にも指定され、この度、多くの車両を迎えて博物館としてオープンすることになりました。

鉄道博物館というと、展示物としてまず蒸気機関車が思い浮かぶ方が多いかもしれません。しかしこの「津山まなびの鉄道館」には、蒸気機関車

はD51（デゴイチ）という有名な貨物用機関車が1両いるだけで、あとは専らディーゼルカーやディーゼル機関車です。蒸気機関車は確かに見た目に勇ましく、多くの鉄道博物館では大々的に展示されています。しかし筆者が見た限り、この博物館では、蒸気機関車を置き換え電化されていないローカル線の近代化に尽くしたディーゼル車両、すなわち軽油を燃料としてディーゼルエンジンで動く車両の展示に力を入れているように思います。旧国鉄のディーゼル車両は、見た目には地味で決して華やかな存在ではありません。しかし、地方のローカル線から蒸気機関車の煤煙を無くし、スピードアップや効率化にも貢献しました。ここに展示されているディーゼル車両の多くは、昭和30年代に、旧国鉄の技術者が車両メーカーと協力して開発し、全国津々浦々を元気に走り回った車両です。目立たない役回りを演じた彼らですが、自動車が広く普及する前は多くの旅客や貨物を運んだ、ローカル線の立役者です。こういったローカル線を支えた名車にスポットが当たり、展示されることは鉄道ファンとして大変嬉しいことです。末永く、この素晴らしい博物館が賑わうことを願います。

津山までは、岡山駅や法界院駅から、快速「ことぶき」で1時間少々、普通列車でも1時間半程度で着きます。旭川の雄大な景色を眺めながら、津山線のディーゼルカーに揺られてこの素晴らしい博物館に、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



津山まなびの鉄道館の全景。ターンテーブルの周りに扇形庫が広がります。ゴールデンウィーク中は機関車が扇形庫からターンテーブルの上へ引き出されて、特別に展示されていました。



扇形庫に顔を並べた旧国鉄のディーゼルカー。手前から特急用、急行用（2両）、普通用のもので、いずれもJR西日本で近年まで使われ、地方の旅客輸送を支えた名車たちです。



今年の6月26日までの土曜・日曜には観光列車「みまさかノスタルジー」も運転されています。



津山線から眺める旭川。途中の福渡駅の付近まで津山線に沿って流れており、場所によって様々に変化する川の表情を眺めると飽きることはありません。